

INFORMATION

図書館開設100周年記念
シンポジウム・展示会を開催します!

本学図書館は、立命館大学の前身である京都法政学校の創立5年後1905年(明治38年)に当時の広小路学舎に図書室が附設され、図書資料の収集、保存、提供に係る図書館業務を開始して以来、今年には開設100周年に当たります。100年の歴史を経て本学の蔵書冊数は240万冊を超えるまでに至り、今では年間のべ200万人を超す入館者が図書館を利用しています。また、「白楊荘文庫」「西園寺文庫」「末川文庫」「加古文庫」等学術的にも極めて貴重なコレクション群を収集・構築し学内外問わず多くの学生・研究者に利用されています。このたび開設100周年の記念事業として、「大学図書館の未来、本の未来」と題した記念シンポジウムや、「白川静と立命館」記念展示会を衣笠、びわこ・くさつ各キャンパスおよび福井県立図書館で開催します(シンポジウム:11/25衣笠、展示会:11/15~23福井県立図書館、11/28~12/6衣笠、12/9~17BKC)。ここでは立命館と関わりの深い白川静先生についてご紹介します。



〔白川静と立命館〕



白川静先生は、1910(明治43)年4月9日福井県福井市に生まれ、1943(昭和18)年3月に立命館大学法文学部を卒業、同大学予科教授、同大学専門学校教授、同大学助教授を経て、1954(昭和29)年3月に同教授とられました。1976(昭和51)年3月に定年退職したのち、1981(昭和56)年3月まで同大学特別任用教授を務め、同年4月同大学名誉教授の称号を受けました。また1962(昭和37)年3月に京都大学から文学博士の学位を取得されました。白川先生は、我が国と中国とが東アジア地域において文化的類型性をもつという広い視野に立ち、中国最古の文字資料である殷・周の甲骨文や金文に対して体系的な研究を行い、中国および日本の古代文化について独創的な研究を築き上げました。その学説は世に白川文字学と称され、内外の学界に高い評価を得ました。数万片の甲骨資料をすべてトレースして書き写すという、余人にはなしがたい基礎作業を通して、漢字の原義を字形学的に体系化しました。その真意を解明した独自の字説は、1900年間もの長い間、字源研究の聖典として権威をもった後漢の許慎『説文解字』の誤りを正しました。60余年におよぶ漢字研究の成果を、独力で大冊3部の辞書(『字統』『字訓』『字通』)に編纂し、漢字文化の豊かな世界を広く世人に理解せしめ、今後の文字表現のあるべき道を示唆しました。白川先生の研究は、もともと日本の古代を考察することに端を発していますが、比較研究の必要性から中国の古代に広がり、漢字文化圏全体に亘る壮大な研究になっています。その結果、広く東アジアの漢字文化圏の文化に対して多大の研究成果を挙げ、その功績は極めて顕著でした。1998(平成10)年11月、文化功労者として顕彰され、2004(平成16)年11月文化勲章が授与されました。(図書館開設100周年記念展示会配布パンフレットより転載)



立命館大学総合情報センターだより 特集号

発行 2005年11月

編集発行 立命館大学総合情報センター

〒600-8507
京都市北区等持院北町56-1TEL 075-4655-216
FAX 075-4655-216
http://www.ritsumei.ac.jp/www-ihp/

アニュアル・レポート2004年度版 特集号

CONTENTS

巻頭言	表紙
学生スタッフ活躍中!	2・3
情報システム部門	
1. 授業でのIT活用	4
・QRコードシステム導入	
・プラズマディスプレイの活用	
・視聴覚資料貸出状況	5
・以学館情報教室へスキャナ導入	
2. ITによる学生サービスの充実	6
・オンライン受講登録	
・卒業合否判定 Web 発表	
3. 学生のITサービス利用状況	7
・無線LANの活用	
・マルチメディアルームの利用状況	
立命館情報化推進機構	

学術情報部門

1. データベース利用状況	8
2. 図書館利用状況	
・開館時間を延長し、より便利になりました!	
・図書資料貸出冊数・入館回数	
・RUNNERS 予約・取寄せ件数が増加	9
・My Library の利用が徐々に浸透	
3. データベースガイダンスの実施状況	10
自動書庫導入効果について	11
進路・就職コーナーをご存知ですか?	
自動貸出機導入!	
Information	12
図書館開設100周年記念シンポジウム・展示会	

アニュアル・レポート2004年度版 特集号の発行にあたって

総合情報センターでは、毎年、他大学との比較を含めて1年間の業務内容と各種設備の利用状況ならびにその統計結果をアニュアル・レポートにまとめて、総合情報センターの活動状況の客観的把握に努めています。この特集号は、その要点をわかり易くまとめると共に、アニュアル・レポート以外の特徴ある業務内容についても取り上げています。2004年度は、「『4年間の学びの確立』に向けたIT化戦略の推進」を業務目標として、ITを活用した業務や利用者サービスの向上に努めてきました。

情報システム部門では、2004年5月に立命館情報化推進機構が設置され、学園全体のIT化推進の体制が確立されました。これを受けて、2005年4月には教育IT化支援室の機能も備えた立命館情報化推進室を設置し、情報化にかかわる幅広い活動と支援を開始しました。システム開発では、RISING IIIを開発中です。また、現在、学園が付属小中高校の増加や本部移転などますます多拠点化する中で、学園全体のIT化を合理的、効率的に進めるための取り組みを強めています。

学術情報部門では、2004年度から第4期学術情報システムが稼動し、これと併せて学術情報施設利用規則が具体的に適用されました。これによって、利用規則の全学統一化が実現し、全学の資料共有に大きく貢献する仕組みが確立しました。また、学生への研究図書の貸し出しを開始し、貸し出し可能冊数を増加させるなど、利用条件の整備・充実を図りました。BKCでは、35万冊の収蔵能力をもち、RUNNERSの蔵書検索システムとも連動するメディアセンターの自動書庫の本格的な運用が始まり、BKCを中心とした書庫問題の解決を図ることができました。2005年度よりBKC図書館の開館時間を拡大して、両キャンパスにおける平日の開館時間を午前9時から午後10時に統一しました。BKCの学生が図書館を大いに活用し、学習・研究の成果に結実されることを期待しています。

最後に、このアニュアル・レポート2004年度版 特集号が、「学生の学びの確立」に向けて、大いに活用されることを願っています。

立命館情報化推進機構
立命館大学総合情報センター長 谷口 吉弘

総合情報センターでは、RAINBOW STAFF、学生ライブラリースタッフが活躍しています。

RAINBOW STAFF

衣笠、びわこ・くさつ両キャンパスのマルチメディアルームや情報システム課窓口で利用者の質問に対応、また各マルチメディアルームの巡回や、情報教室の機器管理などの業務を行っています。さらに、教員向け講習会の講師や各部課のホームページ作成など幅広く活躍しています。

スキルアップのための研修や日々の業務を通じて、学習し成長することを可能にする学内インターンシップとしても機能しています。2005年10月現在、衣笠キャンパス117名、びわこ・くさつキャンパス91名のスタッフが活躍しており、RAINBOW 運用の重要な一翼を担っています。

活動内容の紹介

「わたしたち、困っています!」～学生の立場からみたITを活用した授業改善に対する提案～

近年、「教育分野のIT化」が注目され、本学においてもITを活用した教育改善や授業改善をはかる取り組みが進んでいます。「教育分野のIT化」には、さまざまな手法と規模のものがあり、個々の授業での活用についてはかなり普及してきました。「IT」は教育改善や授業改善を行う一手法であり、うまく活用すれば授業を大きく改善することができますが、今後はその教育上の有効性について検証を行う必要があります。

大学教育開発・支援センターと情報システム課では、RAINBOW STAFFの協力を得て、これらITを活用した授業が学生から見たときに、どのように受け止められているか、またどのように改善してほしいと考えているのかをまとめた冊子「わたしたち、困っています!」を作成しました。プラズマディスプレイ、パワーポイント、小テスト、補助教材などの使い方や作成方法などについて、学生から先生へ具体的な改善提案をまとめているので、是非、日々の授業改善にお役立て下さい。



衣笠キャンパス



衣笠チーフ:白木友里
(政策科学部2回生)

現在、RAINBOW STAFFは衣笠キャンパス117名、びわこ・くさつキャンパス91名計208名の大規模な組織で構成されています。主な業務としては、各マルチメディアルームでの利用者相談、窓口での持ち込みパソコンの対応、情報授業のサポートがあります。

あの赤いスタッフジャンパーは、立命館の学生誰もが知っていると言っても過言ではないでしょう。そのRAINBOW STAFFが、今、変わりつつあります。現在は、主にマルチメディアルームにくる利用者、窓口相談に利用者を対象にサポートを行っています。今後は、立命館大学学生・教員全員に向けたサポートを始めようとして、プロジェクトを立ち上げました。

「教育力強化」と呼ばれるそのプロジェクトは、『学生・教員に対する呼びかけ、サポートを行うことで教育現場の活性化に貢献する』ということを目指して現在動き始めています。立命館大学で行われている授業に対しての率直な意見を学生の視点から出していき、それを実際の授業に生かす。そうすることによって、学生がより積極的に授業に参加する、学ぶ意欲がわいてくることにつながっていくと考えています。

学生は「受動的」でいるままでは決してならないと思います。自分から動き出さなければ、何も始まらないし、充実感もうまれない。今こうして、大学生という自由でその学ぶ場所が完備されている中で、何もせずにいるなんてもったいないのではないのでしょうか。何か自分のやりたいこと、自分の将来の糧になるものを見つけて、やると決めたらとことんやり通す意志をもって日々努力するべきだと思います。

私はRAINBOW STAFF チーフになって、本当にたくさんのことを学びました。自分がやらなければならないという責任、人を信頼し、共に協力して成長すること、そしてなにより、自ら動くという自主精神が芽生えたと思います。まだまだ、自身に納得がいかず悩んだり落ち込んだりすることもありますが、これから自分から変わっていく、変えていくという気持ちを常にもって向上していきたいと思っています。

現在、新しく約40名の研修生が入ってきました。やる気があふれていて、見ているこちらにも刺激を受けます。これから一緒に大きな成長ができることを期待しています。そして今後のRAINBOW STAFFだけでなく、立命館大学全体のさらなる活性化を目標とし、頑張っていきたいです。

びわこ・くさつキャンパス

現在、びわこ・くさつキャンパスのRAINBOW A-STAFF (Assistant-Staff) は、総勢11名の小規模な組織で構成されています。主な業務としては、RAINBOW に導入されているパソコンのLinuxのシステム構築、Linuxのパッケージソフトウェアのテスト・改良・管理、RAINBOW Guide (UNIX 操作編) の編集、依頼を受けてのCGIなどのシステム開発があります。

私はA-STAFFになって、本当にたくさんのことを学びました。最初の頃は、ミーティングに参加しても専門用語ばかりでなにを話しているのかまったく理解できませんでした。ミーティングが終わったあとに用語を調べたり、実際に設定を行ったりしてようやくついていけるようになりました。

システムの構築や開発を通して、みなさんに使ってもらえることを喜びとして日々頑張っています。



伊藤 淳
(理工学研究科M1)

学生ライブラリースタッフ

図書館で開催しているデータベース講習会の講師や、館内の返却台に戻された本のデータを取り、書架に戻す作業などを行っています。各種プロジェクト業務では、図書館ホームページ作成の一翼を担うなど立命館大学図書館では欠かせない重要な役割を果たしています。

RAINBOW STAFFと同様に、スキルアップのための研修や、より高度なサービスが提供できるよう日々努力する中で、学習し成長できる学内インターンシップ機能も持ち合わせています。

活動内容紹介

衣笠図書館

2005年度より、「質問受付コーナー」を2F、3Fの閲覧室に開設しました。「本の場所がわからない」等の資料検索の質問から、そのほかの質問まで図書館職員と連携をとり、どんな質問にもお答えします。



メディアセンター・メディアライブラリー

メディアセンター、メディアライブラリーでは、新着図書紹介コーナーもライブラリースタッフが担当しています。学生の視点から、皆さんに読んでもらいたい本を紹介しています。



学生ライブラリースタッフ体験談

衣笠キャンパス



衣笠チーフ:大山有香
(文学部3回生)

私たちは実にさまざまな形で、図書館と関わっています。書架の整理、行方不明になった本の調査、ガイダンスの講師、館内の地図やポスターの作成、ホームページの更新、カウンターの手伝いなどなど…裏方的なものから人前に立つ仕事まで何でもやります。

私は2年間、スタッフとして活動を続けてきましたが、最初のころと比べると、仕事の種類はずいぶん増えました。最近はじめた質問対応は私たちの意見によってできた仕事です。仕事の中心は、配架といって、返却台の本を書架に戻す仕事なのですが、その際、検索機の使い方や、本の場所についての質問を多く受けます。こうした利用者さんからの質問にもっと対応していこうと始めたのがこの質問対応です。

私たちは、図書館の立場と学生の立場、両方から図書館を見ることができます。また、学生である利用者との距離も近いです。こうした立場を生かし、もっと活用してもらえる図書館を目指して活動していきたいと思っています。

びわこ・くさつキャンパス

北村 和義
(理工学部3回生)

ライブラリースタッフは図書館で働く学生アルバイトの一つです。授業の合間に働くことが可能なため、自分の時間を有効に使うことができます。また、留学生も多く在籍しており、彼らと一緒に働くことは語学の勉強になるだけでなく、色々な発見があり、とても有意義です。

ライブラリースタッフの主な仕事は、返却された資料を書架に戻すことと、館内で利用された資料の調査ですが、テーマ別図書紹介、館内の掲示物の更新、各種ガイダンスの案内、図書館ホームページの検討など利用者に対する広報業務も行っています。

普段何気なく利用している図書館ですが、実際その施設を支える側になってみると、全く違った側面が見えてきます。我々ライブラリースタッフは、学生として図書館に対して日頃感じている不便さを解消し、もっと利用しやすく便利な図書館にするだけでなく、他の学生の皆さんに図書館の持つさまざまな機能を案内し、十分に活用してもらおうことを目指していきます!

1. 授業でのIT活用

QRコードシール 2005年度前期73科目の利用実績

QRコードシールを利用した出席・小テスト管理システムは、科目を担当する教員の負担を増やすことなく、成績評価を多様化させることを通じて、日常点評価を含めたきめ細やかな評価を実現することを目指したシステムです。一度の定期試験で成績評価を決定せず、開講中に小テストや中間テストを課したり、出席管理をおこなう取組みは、学生の学びの意欲や動機付けを高めることに繋がることと期待されています。

QRコードシール利用科目受講登録者数



2004年度後期にQRコードシールを利用された教員と学生の感想です。

「小テストをしやすくなった」▶ 法学部 徳川教授

約100名の講義でQRコードシールを使用した結果、予想通り、小テストの整理の手間が省けてよかった。小テストがしやすくなるので、その方法によっては結果で授業のどこが分かりづらかったかがすぐに分かり、次の授業で前回の授業で分かりづらかった部分の復習をするなど、授業の対策がとりやすくなるのが良い。QRコードシールは様々な可能性を秘めているので、これからも使用して行く予定。

「日常の評価をしてもらえるのは嬉しい」▶ 学生の声

授業の分かり辛い点とかを授業中には教員に直接言いづらいものなので、その事を伝える機会ができて授業が分かりやすくなるというのは嬉しいです。また、最終試験のみだけの評価だと、殆ど授業に出なくても試験の山があたったら単位が取れます。日常の授業出席も評価に汲み取っていただけると、普段の授業にももっとやる気が出ると思います。

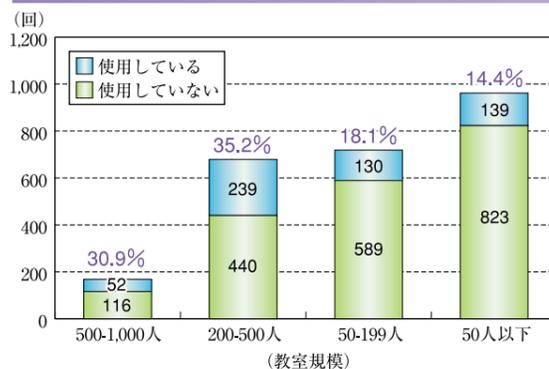
プラズマディスプレイの活用状況

2004年12月20日～24日の授業日に、プラズマディスプレイの利用実態調査を行いました。衣笠、びわこ・くさつキャンパス全体でプラズマディスプレイの利用率は定員200名未満の教室で16%、200名から1,000名定員の教室で34%となり、中大教室での活用が目立ちます。

プラズマディスプレイに映すものとしては、パソコン画面が約半数であり、従来の教材提示装置等により紙の資料を見せる方法から、パソコンで作成したレジュメ、パワーポイント等の資料を直接多くの学生に見せる方法へ移行している状況にあります。

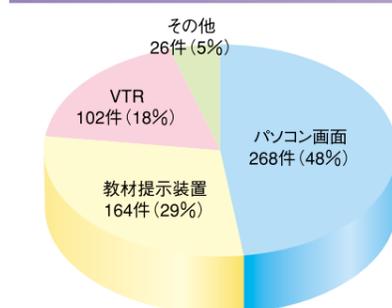
また、プラズマディスプレイにより、教員の顔を映し出す活用もみられることから、教材提示装置の画像や、黒板の文字が見えやすくなることはもちろん、学生が教室のどこに座っても、臨場感ある授業が受けられるようプラズマディスプレイが活用されています。

プラズマディスプレイ 教室規模別利用状況



調査対象：両キャンパスの一般教室230教室（全体の約6割）

プラズマディスプレイに映すもの



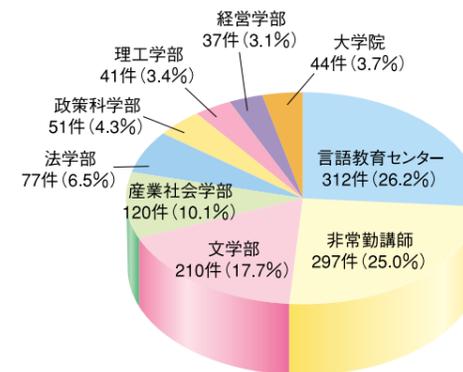
※「その他」には教壇付近を撮影するカメラを使い、教員の顔や板書を映し出す使い方や、サテライト授業において、遠隔教室の様子を映し出す使い方が含まれています。

視聴覚資料の貸出状況

情報システム課では、教室のマルチメディア環境をより活用した授業を行っていただくため、DVD・VHS・カセット・CDなど様々な種類の視聴覚資料の貸出サービスをおこなっています。語学や映画、その他1万点以上の資料を取り揃え、授業にご活用いただいております。

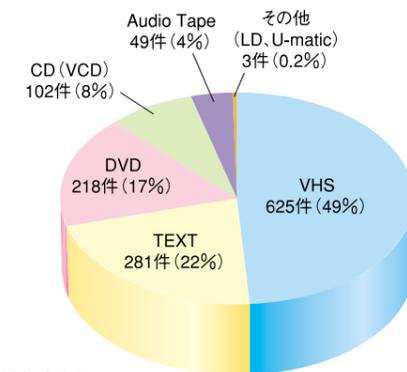
2004年度は、語学系授業での利用が過半数を占めており、貸出上位30位メディアでは、VHSが約半数を占めています。視聴覚資料の一覧は、各キャンパス情報システム課窓口、RAINBOWホームページにて、ご覧いただけます。

所属別利用者状況



※調査期間：2004年4月～2005年2月

メディア別利用者状況



「視聴覚資料利用カード」の発行について

★視聴覚資料利用専用の『視聴覚資料利用カード』（無料）を発行し、帯出手続きを行っています。カード・資料のバーコードを読み取り、瞬時にデータ処理ができるため、手続きの手間が省けます。



★初めて視聴覚資料をご利用いただく際、窓口にて発行いたします。教職員証もしくはライブラリーカード、免許証等、ご自身を証明できるものをご持参の上、情報システム課窓口にお越し下さい。窓口にて、「視聴覚資料利用カード発行申請書」に必要事項を記入していただきます。



視聴覚資料の利用については、下記ホームページをご覧ください。
<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/mr/i-system/index.html>
RAINBOWホームページ内「教職員向け」⇒「視聴覚資料貸出」

以 学館情報教室にスキャナーを導入

2005年度前期から、画像情報デジタル処理を学ぶ授業などで紙媒体をデジタル化できるように全学施設の環境として、以学館の情報教室（80人教室）にA4サイズスキャナーが整備されました。2人に付き1台（計41台：教員用含む）が整備され、USB切替機を使用して2人で共用して利用できます。

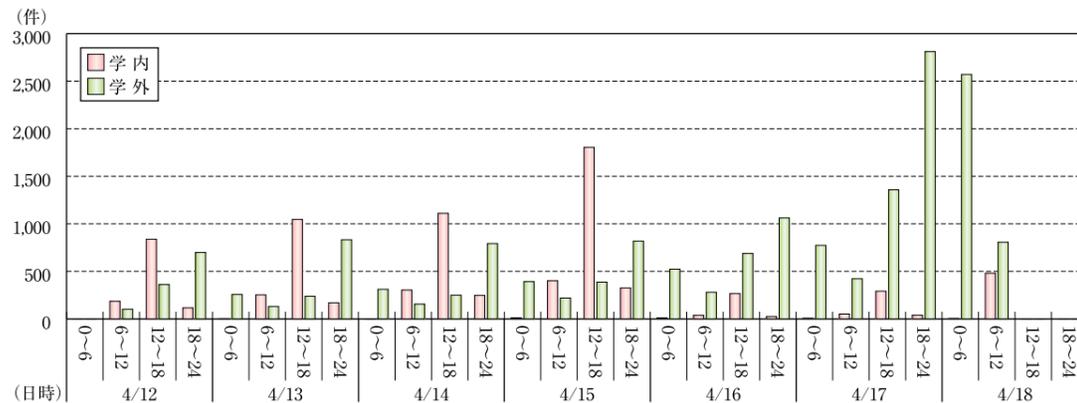


本学では、個人別時間割や休講・補講情報などのメール配信や、卒業合否判定を Web 上で確認できるサービスなど、IT を活用したさまざまな学生サービスを行っています。

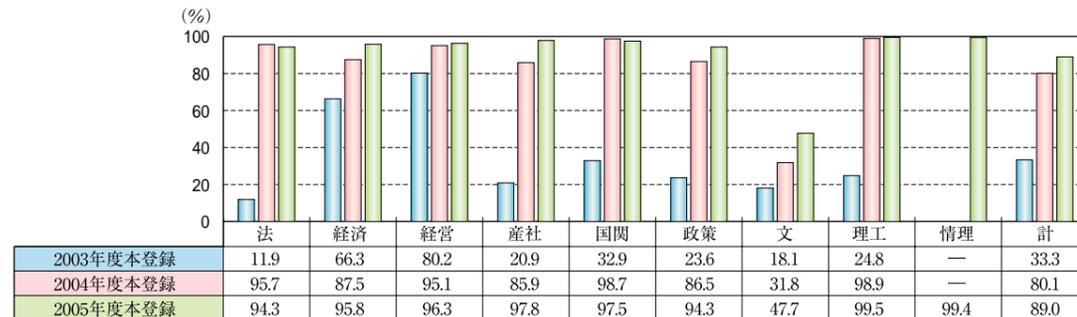
オンライン受講登録

本学では、学生がインターネットで受講登録できるサービスを提供しています。受付期間中は、時間・場所を問わず手続きが可能であり、下記グラフからも分かるように、夜間に自宅等から登録を行っている学生が多い状況です。登録した結果は、リアルタイムにメールで配信され、大変便利です。2005 年度本登録では、平均 91% まで利用率が伸びています。情報理工学部では今年度からオンライン受講登録サービスを開始し、ほぼ 100% の割合で本サービスが利用されています。2005 年度は平均登録率も 2004 年度を上回り、オンライン登録がかなり定着してきました。

時間別オンライン受講登録数 ※ 2005 年度オンライン締め切り 4 月 18 日



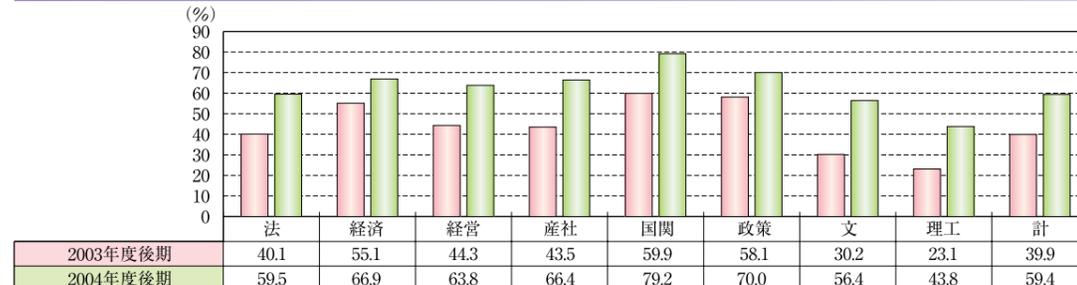
オンライン受講登録率



卒業合否判定

卒業合否の結果を Web 上で参照できるサービスを提供しています。発表にあたっては、各個人がログインを行い、合否結果を参照できます。2004 年度においては、2003 年度に対してアクセス数が約 20% 増加しており、その結果、学部によっては、ログイン率が 80% に及んでいます。なお、同一学生が複数回ログインした場合は、1 回としてカウントしています。

学部別卒業合否結果 Web ログイン率



無線 LAN で年間延べ 20 万人が利用

無線 LAN は、キャンパス内において無線 LAN カード等を装備したノート型パソコンを使って、コードレスで学内 LAN に接続できるシステムです。全ての一般教室をはじめ、キャンパス内の各所に無線 LAN アクセスポイントが整備されており、学生ラウンジや図書館などでもノートパソコンをネットワークに接続して活用することができます。導入 3 年目を迎え、2002 年度の 17 倍、前年度の 2 倍の利用者がありました。

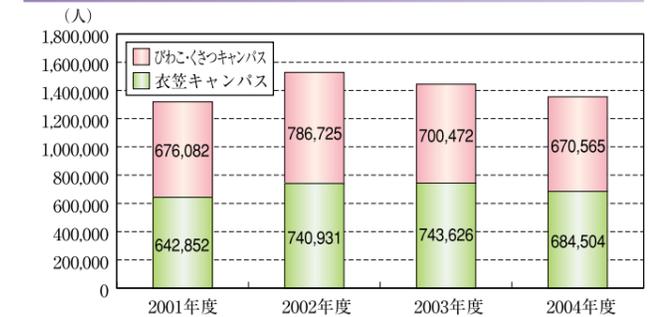
無線 LAN 利用率の推移



学習環境の活用

学生が授業時間外にパソコンを利用して学習できる環境を整備しています。衣笠キャンパス、びわこ・くさつ両キャンパス合わせて 7ヶ所のマルチメディアルームで約 1,000 台のパソコンが自学自習用に設置されています。2004 年度は全学生の 9 割以上がマルチメディアルームを利用しています。

マルチメディアルーム延べ利用者数推移



マルチメディアルーム実利用者数 (Windows ログイン)

	法	経済	経営	産社	国関	政策	文	理工	情理	計
実利用者数 (人)	4,178	3,507	3,730	4,390	1,169	1,601	4,702	6,171	723	30,171
平均アクセス数 (回)	43.1	39.3	39.9	32.5	38.1	49.1	38.3	27.3	51.0	37.1
利用率	93%	93%	92%	91%	89%	95%	88%	84%	100%	93%

学園全体の情報化推進へ — 立命館情報化推進機構の活動 —

立命館情報化推進機構は、立命館大学、立命館アジア太平洋大学 (APU)、各附属校を含む学園全体の情報化戦略について検討し、実行の責任を持つ組織です。2004 年の設置時より以下のような活動を行ってきました。

◆ 学園全体の情報基盤を整備していきます。

次期情報基盤整備について、学園全体で取り組む方針を提起しました (21 世紀第 1 期学園情報基盤整備)。本基盤整備では、多拠点化に対応した情報の共有化やネットワーク利用の効率化などを検討し、情報セキュリティ・e-learning を始めた学生への成長に寄与する情報設備の提供を目指しています。

◆ 学園の総合的な情報関連規程を定めました。

● 立命館情報システム利用規程 (2005 年 4 月 6 日施行 規程第 633 号)

これまで大学・附属校の各部署に分散していた情報関連規程の見直しを行い、立命館情報システム利用規程としてまとめました。この規程は、学校法人立命館の情報システムの円滑な運用ならびにモラル維持およびセキュリティ対策を目的として、利用者や禁止事項等を定めています。本規程施行に伴い、「立命館統合情報システム・ネットワーク利用規程」(規程第 320 号) および「立命館アジア太平洋大学情報システム利用規程」(規程第 421 号) を廃止しました。

● 立命館情報セキュリティポリシー (2005 年 4 月 1 日施行)

学園の IT 化が進むにつれて、情報資産保全、個人情報保護を含む情報セキュリティの重要性が大きな課題となっています。こうした背景を受け立命館情報セキュリティポリシーを定めました。今後本ポリシーについて、実効性や情報技術の発展を鑑みて見直しを行い、高いセキュリティレベルの保持を目指します。

立命館情報化推進機構のホームページ

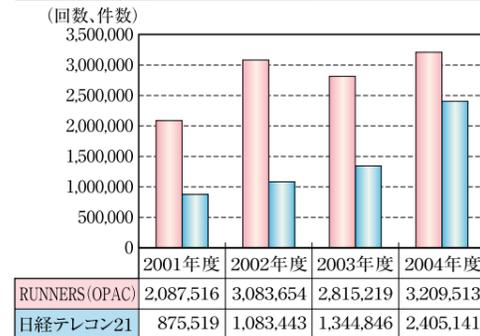
<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/mr/rio/index.htm>

1. データベースの利用状況

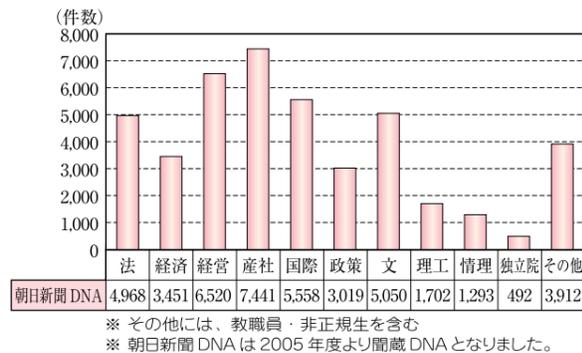
図書館では、各種データベース講習会を実施し、導入したデータベースの広報を含め、利用の指導・案内を行っています。RUNNERSは2004年度よりRUNNERS IVをリプレースし、従来からのオンライン予約・取寄機能に加え、オンライン(My Library)での貸出状況確認、延長が出来るようになるなど、サービスを充実させました。また、データベース講習会(個人での応募制)やステップアップセミナー(教員からのゼミ単位での応募制)で、日経テレコンなどのコアデータベースを積極的に案内・広報したため、その利便性から利用は年毎に増加しています。代表的なデータベースの利用状況が以下のグラフになっています。

蔵書検索データベース

RUNNERS 蔵書検索利用回数、日経テレコン21 サーチ件数



朝日新聞 DNA 所属別サーチ件数



2. 図書館の利用状況について

開館時間を延長し、より便利になりました!

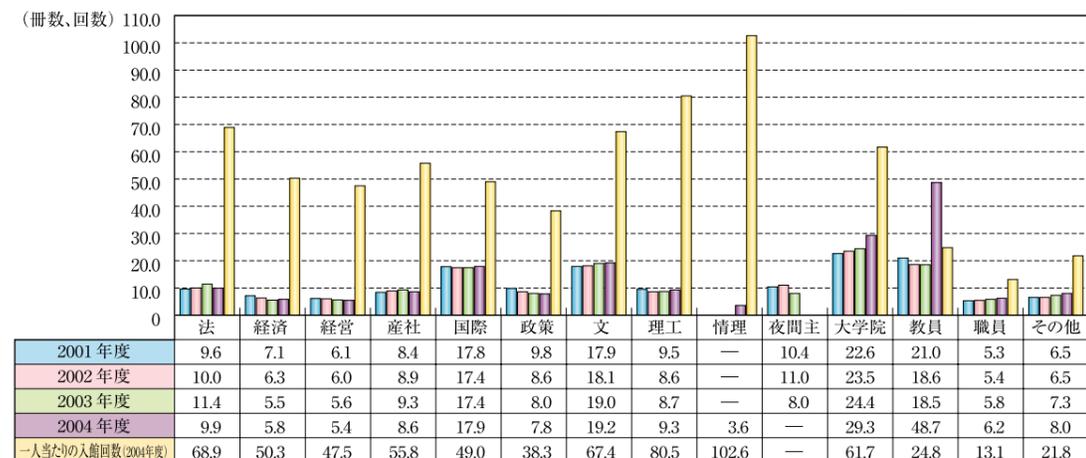
学生からの要望に応え、2005年度からメディアセンター・メディアライブラリーの開館時間を延長しました。衣笠図書館・メディアセンター・メディアライブラリーの3館の開館時間が、平日9:00~22:00、土日10:00~17:00(開講期)となりました。

図書資料貸出冊数、入館回数

2004年度の館外貸出冊数は約47万9千冊で、2003年度と比較して約112%と増加しています。一人当たりの貸出冊数を所属別に算出したのが、下記グラフです。文学部、国際関係学部で1人当たり平均15冊を超えていることが特徴的です。また、情報理工学部では、図書の貸出は少ないが入館回数は非常に多いことから、図書資料を使わず、コンピューターを利用した学習をしていることが考えられます。

※利用規則の施行により、2004年10月1日に「教職員A」(名誉教授、教授、助教授、客員教授等)の一斉貸出を行ったため、その数値が2004年度の貸出冊数に含まれています。

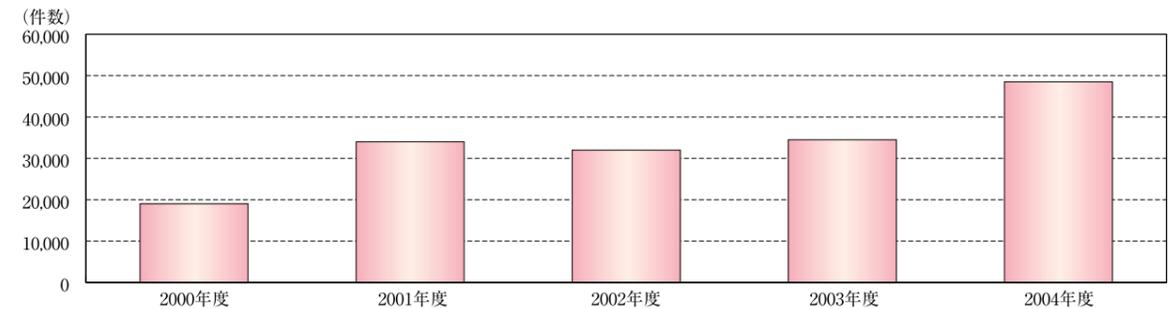
1人当たりの貸出冊数、1人当たりの入館回数



RUNNERS 予約・取寄せ件数が増加

RUNNERSのOPAC検索画面にある予約・取寄せ機能を使えば、他キャンパス資料の取寄せや、貸出中資料への予約をweb上から行うことが出来ます。ガイダンス等で、予約取寄せ機能を積極的に広報したため利用数が増加しました。(予約・取寄せ回数はAPUの回数も含む)

RUNNERSによる予約・取寄せ機能

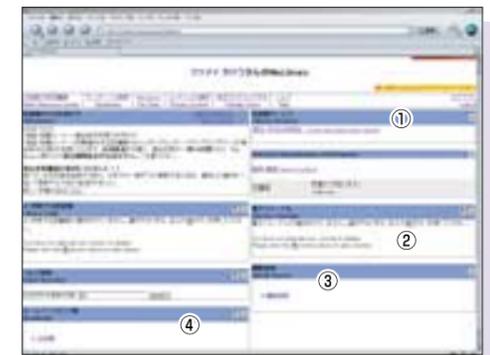


My Libraryの利用が徐々に浸透

2004年度より、My Library(web上の図書館)のサービスを開始しました。My Library機能を使えば、図書館へ来館することなく、web上より貸出延長等の手続きをすることが可能です。実利用人数は、10,755人(教職員を含む)となっています。大学院生では利用が6割を超え、国際関係学部では約4割が利用しているなど、徐々に利用が広がっています。

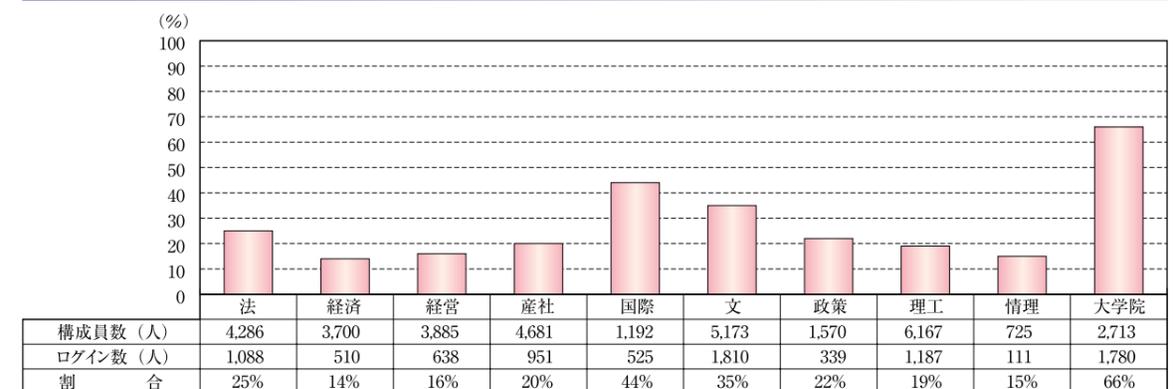
My Libraryで出来ること

- web上で貸出中資料の延長手続きができます。
- 本学が契約している電子ジャーナルの中から、オリジナルのリストを作成できます。
- 横断検索で、複数のデータベースを同時に検索できます。
- よく使うインターネットサイトのURLを登録して、自分だけのリンク集を作成できます。



My Library ログイン数割合

(構成員のうち、ログインをした実人数の割合: 2004. 6. 16 ~ 2005. 3. 31)



3. データベース・ガイダンス等実施状況

図書館では様々なガイダンスを実施しています

下記は衣笠・びわこ・くさつキャンパスで実施した2005年度開催分です。下記以外にも、情報リテラシー・基礎演習科目に取り入れた新入生図書館ガイダンス、就職活動のための情報活用講座、図書館STEP UPセミナー（3～4回生および院生のゼミクラスを対象にゼミの講義テーマに沿った図書資料の探し方や学術情報の検索方法を紹介／衣笠）、留学生対象図書館ガイダンス、教員対象デリバリーサービスなどを実施しています。今後も利用に役立つガイダンスを実施していきます。そのほか、各データベースのログイン時にヘルプ画面で利用説明を確認できる「e-guidance」も行っています。（現在、「e-guidance」を利用できるデータベースが限られているため順次拡大中です。）

衣笠キャンパス

講座名	内容
国内文献検索（学内文献収集）	RUNNERS 利用法マスター！（他のキャンパスにある資料を使う、借りている本の延長を自宅から行う等）
国内文献検索（雑誌論文検索）	ゼミのテーマに関する論文をまとめて調べる方法
国内文献検索（新聞記事検索）	ゼミのテーマに関する過去の記事を調べたり、先月読んだ新聞の記事を読む方法
海外文献検索（基本編・応用編）	海外の読みたい論文・雑誌記事について、データベースを使って簡単に検索する方法
テーマ別データベース講習会	世界の新聞記事検索——世界各国の新聞記事を検索し全文（一部）読む方法 法情報検索——国内外の判例、法律文献情報を検索する方法 統計情報検索——経済統計資料を検索し資料の全文や要約を見る方法

びわこ・くさつキャンパス

講座名	内容
物質・化学系文献検索	物質・化学系文献検索の味方“SciFinder”活用法
理工系のための情報検索	データベースや電子ジャーナルを使って課題・テーマから最適なレポート資料を探し出す方法
電子ジャーナルリンク活用	CiNii等からの電子ジャーナルへのリンクを活用し研究室等から気軽に科学技術論文を入手する方法
Proceedings（会議録）活用	本学で本文まで無料閲覧できるデータベースと世界中の会議録を検索できるデータベースの紹介
初心者の特典	滋賀県知的所有権センターから講師を迎え、無料で検索できる特許庁の特許電子図書館を使った上手な特許活用法
社会科学系のための資料検索（基礎編・海外資料編）	レポートに必要な情報から資料の入手まで（基礎編）／世界中の文献を探せるデータベース利用方法・欲しい論文がすぐ入手できる電子ジャーナル利用法
企業情報の調べ方	気になる企業の情報収集や業界研究などに便利なデータベース等を紹介
日経テレコン21 スクール	記事検索以外の日経テレコンの便利で効果的なデータベース活用法

受講生からの声

- ・「面白く役に立ちます。」（理工系のための情報検索講座受講生）
- ・「CiNiiの使い方を知ることができて良かった。わかりやすくてとても良かった。」（同上）
- ・「今後の研究の助けになりそうです。」（同上）
- ・「データベースの特徴を今まで知らずに使用していたので、今後の研究の参考になり参加してよかった。」（海外文献検索講座・基本編受講生）
- ・「普段データベースを利用することが少なかったが、今回の知識を生かしてプレゼン等の資料集めをしようと思った。」（CiNii データベース講座受講生）

自動書庫導入効果について



メディアセンター（びわこ・くさつキャンパス）では、2004年4月より自動書庫が稼働しています。メディアセンター内に設置されている端末で利用したい図書を呼び出すと地階から1階カウンターまで図書がリフトで運ばれてきます。この自動書庫には35万冊の図書資料が収納できます。

〔導入効果その1〕

図書資料その利用状況に応じて開架と地下書庫に振り分けて配置することができるようになり、利用者の利便性を向上させることができました。

〔導入効果その2〕

完全自動化の実現により、スタッフの図書出納業務が軽減されることで、利用者へのサービス提供に力を注いでいます。

〔導入効果その3〕

検索・リクエストした図書は、2～3分で書庫ステーションへ搬送されてきます。カウンターでは、利用者の皆さんをお待たせすることなく図書を提供できます。

進路・就職コーナーを ご存知ですか？



立命館大学父母教育後援会からのご支援により「進路・就職コーナー」が各キャンパス図書館に設置されました。

このコーナーは、各学部が目標とする進路、就職や資格取得を支援する図書資料を収集し提供しています。具体的には、公務員試験、司法書士、公認会計士等の各種資格試験取得を支援するための問題集や、就職活動を支援する関連資料を取り揃えています。これらの資料を活用し、就職活動や資格取得対策に役立ててください。図書館は就職活動・資格試験取得を応援します。ぜひ活用してください。

各館の設置場所

衣笠図書館	1階 レファレンスカウンター横
メディアライブラリー	2階 第1閲覧室入口付近
メディアセンター	1階 サービスカウンター前

対象者：全利用者

貸出日数：14日間

その他：①「貸出期間延長」は、できません。

②「試験期貸出」「長期貸出」の対象外の資料とします。

自動貸出機導入！

2004年度より、衣笠図書館、メディアライブラリー、メディアセンターに自動貸出機を導入しました。メディアセンターでは利用率が特に高く、貸出手続きの簡便化に繋がっています。どうぞご利用ください。

（衣笠図書館・メディアセンターは2004年5月末よりサービス開始、メディアライブラリーは2005年4月よりサービス開始。）



（人数、回数）自動貸出機利用状況（データ抽出期間 運用開始～2005.10.31）

